

製品: N3D-FR512 ページ: 1 / 15
SDS 番号: 220233-001 (版 1.0) 日付: 2025/06/20

1. 化学物質等及び会社情報

化学品の名称: N3D-FR512

化学品の推奨用途と使用上の制限:

用途: 印刷樹脂

会社/企業の特定:

供給者

Arkema Inc.
900 First Avenue
キングオブロシア、PA 19406
電話番号: (800) SARTOMER

輸入者

アルケマ株式会社 〒100-0011
東京都千代田区内幸町2-2-2
富国生命ビル 15F
電話番号: 03 - 5251 - 9900
FAX 番号: 03 - 5251 - 9930

緊急連絡電話番号

0800-300-5842 (ケムトレック ジャパン 緊急電話番号 (日本) (フリーダイヤル))
+65 3163 8374 (CHEMTREC APA Regional emergency phone number)

2. 危険有害性の要約

2.1. 物質または混合物の分類:

皮膚腐食性及び皮膚刺激性, 区分2, H315
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性, 区分1, H318
皮膚感作性, 区分1, H317
発がん性, 区分1B, H350
水生環境有害性 短期 (急性), 区分2, H401
水生環境有害性 長期 (慢性), 区分2, H411

詳しい情報:

このセクションで言及された H-ステートメントの全文は、第16章 を参照する。

2.2. GHSラベル要素:

GHS-ラベリング

絵表示又はシンボル:



注意喚起語:

危険

危険有害性情報:

H315: 皮膚刺激。
H317: アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
H318: 重篤な眼の損傷。
H350: 発がんのおそれ。
H411: 長期継続的影響によって水生生物に毒性。

注意書き:

安全対策:

P201: 使用前に取扱説明書を入手すること。
P202: 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
P261: ミスト、蒸気の吸入を避けること。
P264: 取扱い後は皮膚をよく洗うこと。
P272: 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
P273: 環境への放出を避けること。
P280: 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

応急措置:

P302 + P352: 皮膚に付着した場合: 多量の水で洗うこと。
P305 + P351 + P338 + P310: 眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること。
P308 + P313: ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診断/手当てを受けること。
P333 + P313: 皮膚刺激又は発しん(疹)が生じた場合: 医師の診察/手当てを受けること。
P362 + P364: 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
P391: 漏出物を回収すること。

保管:

P405: 施錠して保管すること。

廃棄:

P501: 残余内容物・容器等は産業廃棄物として適正に廃棄すること。

2.3. 他の危険有害性:

健康への潜在影響:

高温では、熱分解の生成物が呼吸器系に刺激を与える可能性がある。
皮膚に付着した場合: 皮膚に接触すると有害のおそれ。
経口: 飲み込むと有害のおそれ。

環境に与える影響:

藻に対して有毒である。藻に対して毒性がある。魚類に対して毒性。

物理的及び化学的危険性:

高温の場合: 熱分解により有毒な生成物が生じる。
分解生成物: 第10章を参照のこと。

3. 組成、成分情報

この製品は混合物である。

化学特性¹⁾:

アクリル樹脂

危険有害成分:

化学名 ¹	化審法 (ENCS)/安 衛法 (ISHL) 番 号	CAS番号	含有量	分類
アクリル酸エステル	CBI	CBI	< 40 %	皮膚感受性 1B; H317 (1B) 眼に対する重篤な損傷 1; H318 水生環境有害性 短期 (急性) 2; H401 水生環境有害性 長期 (慢性) 2; H411
アクリルオリゴマー	CBI	CBI	< 20 %	皮膚感受性 1A; H317 水生環境有害性 短期 (急性) 2; H401 水生環境有害性 長期 (慢性) 2; H411
低粘度アクリレートオリゴマー	CBI	CBI	< 20 %	急性毒性 5 (経口); H303 皮膚感受性 1B; H317 眼に対する重篤な損傷 1; H318 水生環境有害性 短期 (急性) 2; H401 水生環境有害性 長期 (慢性) 2; H411
架橋型アクリレートモノマー	CBI	CBI	< 20 %	皮膚感受性 1A; H317
アクリル酸エステル	CBI	CBI	< 10 %	急性毒性 3 (経皮); H311 皮膚刺激性 2; H315 眼刺激性 2A; H319 皮膚感受性 1; H317
機密物質	CBI	CBI	< 6 %	急性毒性 4 (経口); H302 眼刺激性 2A; H319 急性毒性 5 (吸入); H333
機密添加剤	CBI	CBI	< 1,5 %	皮膚感受性 1A; H317 水生環境有害性 長期 (慢性) 4; H413
機密物質	CBI	CBI	< 1 %	生殖毒性 2; H361f 特定標的臓器/全身毒性 (反 2; H373 発がん性 2; H351
安定剤	CBI	CBI	< 0,1 %	急性毒性 4 (経口); H302 急性毒性 5 (経皮); H313 皮膚感受性 1A; H317 皮膚刺激性 2; H315 眼刺激性 2B; H319 特定標的臓器/全身毒性 (反 2; H373
非開示成分	CBI	CBI	< 0,1 %	引火性液体 3; H226 生殖毒性 2; H361f 水生環境有害性 長期 (慢性) 1; H410
アクリル酸エステル	CBI	CBI	< 0,05 %	皮膚感受性 1A; H317 生殖毒性 2; H361d 水生環境有害性 短期 (急性) 2; H401 水生環境有害性 長期 (慢性) 2; H411

危険有害不純物:

化学名 ¹	EC番号	CAS番号	含有量	分類
フェニルグリシジルエーテル	204-557-2	122-60-1	< 0,2 %	急性毒性 4 (経口); H302 急性毒性 4 (経皮); H312 急性毒性 4 (吸入); H332 皮膚刺激性 2; H315 皮膚感受性 1A; H317 生殖細胞変異原性 2; H341 発がん性 1B; H350 水生環境有害性 短期 (急性) 3; H402 水生環境有害性 長期 (慢性) 3; H412

アクリル酸	201-177-9	79-10-7	< 0,2 %	引火性液体 3; H226 急性毒性 4 (経口); H302 急性毒性 4 (吸入); H332 急性毒性 4 (経皮); H312 皮膚腐食性 1A; H314 眼に対する重篤な損傷 1; H318 特定標的臓器／全身毒性 (単 3; H335 水生環境有害性 短期 (急性) 1; H400 水生環境有害性 長期 (慢性) 2; H411 M-ファクター 急性 = 1
-------	-----------	---------	---------	--

¹: 正式輸送品目名称については第14章を参照のこと。

4. 応急措置

4.1. 必要な応急処置内容:

一般的アドバイス:
この安全データシートを担当医に見せる。

吸入:
新鮮な空気のある場所に移動する。必要に応じて、酸素吸入や人工呼吸を行うこと。医学的監視下に置く。症状が持続する場合は、医師に連絡する。

皮膚に付着した場合:
汚染された衣服と靴を脱いで、直ちに石けんと多量の水で洗浄する。皮膚の刺激やアレルギー反応の場合は、医師の手当てを受ける。

眼に入った場合:
直ちに眼を開けた状態で少なくとも15分間徹底的に洗浄する。直ちに眼科医の診察を受ける。

経口:
無理に吐かせないこと。口をすすぐこと。必要であれば医師に相談する。

応急措置をする者の保護:
保護服。通気が不十分な場合は、適切な呼吸装置を着用する。

4.2. 最も重要な兆候及び症状:

危険有害性情報: アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ 重篤な眼の損傷。発がんのおそれ。

4.3. 医師に対する特別注意事項: データなし

5. 火災時の措置

5.1. 消火剤:

適切な消火剤:
二酸化炭素 (CO2) , 泡沫, 粉末消火剤

使ってはならない消火剤:
棒状注水

5.2. 火災時の特有な危険有害性:

燃焼による有毒生成物の生成: , 酸化炭素類, 窒素酸化物 (NOx) , シアン化水素 (青酸) , リン酸
重合は発熱反応であり、コントロールできない反応に陥る可能性がある。
イソシアネート
リンの酸化物

5.3. 消防士へのアドバイス:

特有の消火方法:
火災や爆発の場合は、煙霧を吸い込まない。未開封の容器を冷却するために水を噴霧する。火災時には消火用水が排水溝ないし水路へ流出しないよう防止すること。
本製品の密閉した容器は、周囲の火炎から熱を受けると爆発する可能性がある。

消火作業者の保護具:

火災の場合、自給式呼吸装置と保護服を着用する。

6. 漏出時の措置

6.1. 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置:

保護具を使用する。十分な換気を確保する。安全な場所に避難する。付近の着火源となるものを速やかに取り除く。皮膚や目に触れないようにすること。蒸気やミストの吸い込みを避けること。

6.2. 環境に対する注意事項:

河川または下水システムに排水しない。環境中への放出禁止。

6.3. 封じ込め及び浄化の方法及び機材:

除去方法:

洗浄後は、水で痕跡を洗い流す。後で処理するために廃水を回収する。

回収と中和:

シャベルを使って適切な容器に入れ、処分する。残ったものは不活性吸収剤に吸収させて回収する（砂、パーミキュライト、パーライト）
吸収したものを回収する場合は、清潔な帯電防止工具を使用すること。

排出:

漏出物は不燃性の吸収材で回収し、地方自治体の規則に従って処分すること。

6.4. 参照すべき他の項目: なし。

7. 取扱い及び保管上の注意

7.1. 安全な取扱いのための予防措置:

技術的対策/予防策:

製品に適用される保管および取り扱い注意事項: 液体. 刺激性. 感作を起す。環境危険物質. 機械設備には、適切な換気装置を設置する。シャワー、洗眼浴を備えること。

取り扱い:

ほとんどのアクリレートモノマーは低粘度なので、内容物の取り出しや移し替え及びその他の作業の際に加熱は不要である。バンドヒーターや蒸気などの局所加熱が生じる機器は使用しないこと。恒温室、恒温槽を使用すること。品質の劣化や制御できない有害な重合が起こる可能性があるため、加熱しすぎないこと。付近の着火源となるものを速やかに取り除く。静電気対策のために、接地すること。換気が充分でない場合、適切な呼吸器を装着する。もし可能であれば、閉鎖系でのみ製品を使用する。曝露を避ける一使用前に特別指示を受ける。取扱い時には最大限の注意を払う。作業場の製品の量は進行中の作業に絶対必要な量に厳密に制限する。製品が粘性液体/固体である場合、元の容器からの内容物を移し替える際は、最高60°C/ 140° Fまで加温できるが、24時間以上加温しないこと。

衛生対策:

汚染された衣服は直ちにすべて脱がせる。皮膚や目に触れないようにすること。蒸気の吸入を避けること。休憩前や終業時には手を洗う。使用中は飲食及び喫煙を禁止する。
取り扱った後、手を洗うこと。食堂に入る前に汚染した衣服を脱ぎ、保護具を取り外す。

7.2. 配合禁忌等を踏まえた保管条件:

乾燥した、涼しい、換気のよい場所で、容器の栓をしっかりと閉めて保管する。納品時の容器でのみ保管する。霜、熱、日光から保護する。裸火、高温のものおよび着火源から遠ざける。ドラム容器内の空気と重合禁止剤の量を確認すること。重合抑制のため、溶存酸素量にも注意すること。全ての容器内で液体の上部に空気間隙が必要である。無酸素環境下での保管は避けること。不浸透性床を設置すること。堤で囲われた区域内にキャッチタンクを備えること。

保管温度: > 0 ° C

保管温度: < 38 ° C

別途規定していない限り、品質保証期限は受領後6ヶ月とする。

禁忌物質:

酸類 塩基類 酸化剤 還元剤

包装材料:

推奨: 内面塗装スチールドラム缶, プラスチック製ドラム

不適切材料: 銅, 鉄

7.3. 特定の最終用途: なし.

8. 暴露防止及び保護措置

8.1. 管理濃度:

許容濃度 規定なし

8.2. 曝露防止:

適切な技術的管理: 密閉された空間（タンク、コンテナなど）で作業する場合は、呼吸に適した空気が供給されていることを確認し、推奨される装置を着用すること。

保護具:

呼吸用保護具: 換気が充分でない場合、適切な呼吸器を装着する。
手の保護具: ニトリルゴム製の手袋
溶剤と併用する製品: 厚手 (0.5 mm以上) のニトリル製手袋を使用すること。
使ってはいけないもの: 天然ゴム, 手袋に劣化または薬品の浸透を示す兆候わずかにある場合でも、手袋を破棄し取り替えなければならない。
眼／顔面の保護: サイドシールド付き保護眼鏡, コンタクトレンズは着用しないこと。
皮膚及び身体への保護具: 長袖の衣服

環境における曝露管理: 6章を参照

9. 物理的及び化学的性質

9.1. 基礎物理および化学特性の情報

外観:

物理的状态 (20°C): 液体
形状: 粘性のある
色: 黒色
臭い: アクリル臭
臭覚閾値: データなし
pH: 不定 (水溶液ではない)
融点/ 範囲: データなし
沸点/ 沸騰範囲: データなし
引火点: データなし
蒸発速度: データなし
燃焼性 (固体、ガス): データなし
蒸気圧: データなし
蒸気密度: データなし
相対密度 (水=1): データなし
水に対する溶解度: データなし
オクタノール／水分配係数: アクリル酸エステル:
log Kow : 1, 09 - 2, 61 , @ 25 ° C (OECD 試験ガイドライン 117)
アクリルオリゴマー:

低粘度アクリレートオリゴマー:
log Kow : 2, 03 (OECD 試験ガイドライン 117)
架橋型アクリレートモノマー:
log Kow : 3, 38 (計算値)
アクリル酸エステル:
log Kow : 2, 48 (計算値)
機密添加剤:
log Kow : 5, 8 (OECD 試験ガイドライン 117)
アクリル酸:
log Kow : 0, 46 , @ 25 ° C (OECD 試験ガイドライン 107)
非開示成分:
log Kow : 6, 49 , @ 25, 1 ° C (OECD 試験ガイドライン 123)

自然発火温度:	データなし
分解温度:	データなし
粘度:	2.000 CPS , @ 25 ° C
爆発特性:	
爆発性:	規定なし
酸化特性:	規定なし

9.2. その他のデータ: なし.

10. 安定性及び反応性

10.1. 反応性: データなし

10.2. 化学的安定性:
通常の取り扱い及び保管条件では安定である。

10.3. 危険な反応の潜在性:
製品の安定化のため、重合禁止剤を添加してある。重合禁止剤の活性保持のため、保管容器内の空気量を維持することが重要である。阻害されないと、危険な重合が起こる可能性がある。重合は発熱反応であり、コントロールできない反応に陥る可能性がある。

10.4. 避けるべき条件:
熱、炎、火花。付近の着火源となるものを速やかに取り除く。静電気放電に対して予防処置手段を講ずる。

10.5. 避けるべき不適合材料:
酸類, 塩基類, 酸化剤, 還元剤

10.6. 危険有害な分解生成物:
燃焼による有毒生成物の生成：, 酸化炭素類, 窒素酸化物 (NOx), シアン化水素（青酸）

11. 有害性情報

この製品の有害性評価には、第3章に記載された成分及びその類似物質／代謝産物に関する利用可能な全てのデータを考慮した。

11.1. 毒性情報:

急性毒性:

吸入:	入手可能な情報だけでは、この混合物の危険性は判断できない。
機密物質:	
・ 動物で:	LC50/4 h/ラット: > 4, 85 mg/l (方法: OECD 試験ガイドライン 436, エアゾール) (エアゾール)
アクリル酸エステル:	
・ 動物で:	死亡例なし/8 h/ラット: (飽和雰囲気下)
経口:	組成物から判断して: 飲み込むと有害のおそれ。
アクリル酸エステル:	
・ 動物で:	死亡例なし/ラット: 2.000 mg/kg (方法: OECD 試験ガイドライン 423)
アクリルオリゴマー:	
低粘度アクリレートオリゴマー:	
・ 動物で:	LD50/ラット: > 2.000 mg/kg (方法: OECD 試験ガイドライン 401)
架橋型アクリレートモノマー:	
・ 動物で:	死亡例なし/ラット: 2.000 mg/kg (方法: OECD 試験ガイドライン 423)
機密物質:	
・ 動物で:	LD50/ラット: > 300 - 2.000 mg/kg (方法: OECD 試験ガイドライン 423)
アクリル酸エステル:	
・ 動物で:	LD50/ラット: 5.350 mg/kg (5.19 ml / kg)
経皮:	組成物から判断して: 皮膚に接触すると有害のおそれ。
アクリルオリゴマー:	
架橋型アクリレートモノマー:	
・ 動物で:	死亡例なし/ラット: 2.000 mg/kg (方法: OECD 試験ガイドライン 402)
アクリル酸エステル:	

・ 動物で: LD50/ウサギ: 291 mg/kg (0.283 ml / kg)

局所効果 (腐食性 / 刺激性 / 眼に対する重篤な損傷):

皮膚に付着した場合: 組成物から判断して: 皮膚刺激。

アクリル酸エステル:
・ 動物で: 皮膚刺激なし (指令 67/548/EEC, Annex V, B. 4., ウサギ, 曝露時間: 4 h)

アクリルオリゴマー:

低粘度アクリレートオリゴマー:
皮膚刺激性なし (OECD 試験ガイドライン 439)
(OECD 試験ガイドライン 404)

架橋型アクリレートモノマー:
・ 動物で: 皮膚刺激なし (OECD 試験ガイドライン 404, ウサギ)

機密物質:
皮膚刺激なし (OECD 試験ガイドライン 439)

アクリル酸エステル:
・ 動物で: 皮膚刺激性 (ドレイズ試験, ウサギ)

眼に入った場合: 組成物から判断して: 重篤な眼の損傷。

アクリル酸エステル:
・ 動物で: 強度の眼刺激 (指令 67/548/EEC, Annex V, B. 5., ウサギ)

アクリルオリゴマー:

低粘度アクリレートオリゴマー:
目への激しい刺激性あるいは腐食性
強度の眼刺激 (OECD 試験ガイドライン 405, ウサギ)
眼への刺激なし (OECD 試験ガイドライン 437, In vitro)

架橋型アクリレートモノマー:
眼への刺激なし (OECD 試験ガイドライン 437, In vitro)

機密物質:
・ 動物で: 目への刺激 (OECD 試験ガイドライン 405, ウサギ)

アクリル酸エステル:
・ 動物で: 目への刺激 (ウサギ)

呼吸器感受性又は皮膚感受性:

吸入: データなし

皮膚に付着した場合: 組成物から判断して: アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ

アクリル酸エステル:
・ 動物で: 皮膚感受性のあるもの (方法: OECD 試験ガイドライン 429 LLNA : 局所リンパ節試験, マウス)

アクリルオリゴマー:

低粘度アクリレートオリゴマー:
・ 動物で: 皮膚との接触により弱い感受性を示す。 (方法: OECD 試験ガイドライン 406 モルモットマキシマイゼーション法, モルモット)

架橋型アクリレートモノマー:
・ 動物で: 皮膚接触により強い感作が引き起こされる。 (方法: OECD 試験ガイドライン 429 LLNA : 局所リンパ節試験, マウス)

アクリル酸エステル:
・ 動物で: 皮膚との接触により弱い感受性を示す。 (方法: モルモットマキシマイゼーション法, モルモット)

機密添加剤:
・ 動物で: 皮膚接触により強い感作が引き起こされる。 (方法: OECD 試験ガイドライン 406 モルモットマキシマイゼーション法, モルモット)

フェニルグリシジルエーテル:
・ 動物で: 皮膚接触により強い感作が引き起こされる。 (方法: ビューラー法, モルモット)
・ 動物で: 皮膚接触により強い感作が引き起こされる。 (方法: OECD 試験ガイドライン 406 モルモットマキシマイゼーション法)
・ ヒトで/人体で 交差反応性 皮膚の感作のいくつかの事例が報告されている。

非開示成分:

・ 動物で:

皮膚との接触により弱い感受性を示す。(方法: OECD 試験ガイドライン 429 LLNA : 局所リンパ節試験, マウス)

安定剤:

・ 動物で:

皮膚接触により強い感作が引き起こされる。(方法: OECD 試験ガイドライン 429 LLNA : 局所リンパ節試験, マウス)

CMR 影響:

生殖細胞変異原性:

入手可能な情報だけでは、この混合物の危険性は判断できない。

In vitro

アクリル酸エステル:

Ames試験インビトロ: 活性 (方法: OECD 試験ガイドライン 471)
in vitro 哺乳類細胞小核試験: 活性 (方法: OECD 試験ガイドライン 487)

アクリルオリゴマー:

低粘度アクリレートオリゴマー:

Ames試験インビトロ: 不活性 (方法: OECD 試験ガイドライン 471)
in vitro 哺乳類細胞小核試験: 不活性 (方法: OECD 試験ガイドライン 487)
哺乳類細胞に関するインビトロ遺伝子突然変異試験: 不活性 (方法: OECD 試験ガイドライン 476)

架橋型アクリレートモノマー:

Ames試験インビトロ: 不活性 (方法: OECD 試験ガイドライン 471)

機密物質:

(同類の製品で得られた結果)。インビトロ試験およびインビボ試験の結果から、製品に遺伝毒性があるとみなされない。

アクリル酸エステル:

Ames試験インビトロ: 概して遺伝毒性がない。
in vitro哺乳動物細胞遺伝子変異試験: 不活性
CHO cellの染色体異常へのインビトロ試験: 不活性

フェニルグリシジルエーテル:

幾つかのin vitro試験で陽性の結果が得られた。

発がん性:

組成物から判断して: 発がんのおそれ。

フェニルグリシジルエーテル:

・ 動物で:

発癌性動物実験において有り, 標的臓器: 鼻腔 (方法: OECD 試験ガイドライン 451, ラット, 2 年, 吸入)
無毒性量 (NOAEL) : 12 ppm

機密物質:

オスで

存在下: 腫瘍, 標的臓器: 膀胱 (ラット, 慢性, 飲食)

生殖毒性:

生殖毒性:

入手可能な情報だけでは、この混合物の危険性は判断できない。

アクリル酸エステル:

・ 動物で:

繁殖/発生への影響スクリーニング試験: 繁殖性に対する毒性はない。
NOAEL (親の毒性): 50 mg/kg bw/day
NOAEL (生殖毒性): > 200 mg/kg bw/day
NOAEL (発生毒性): > 200 mg/kg bw/day
(方法: OECD 試験ガイドライン 422, ラット, 経口投与)

アクリルオリゴマー:

低粘度アクリレートオリゴマー:

・ 動物で:

繁殖/発生への影響スクリーニング試験: 繁殖性に対する毒性はない。
NOAEL (親の毒性): > 100 mg/kg bw/day
NOAEL (生殖毒性): > 100 mg/kg bw/day
NOAEL (発生毒性): > 100 mg/kg bw/day
(方法: OECD 試験ガイドライン 422, ラット, 経口投与)

架橋型アクリレートモノマー:

繁殖/発生への影響スクリーニング試験: 生殖能力への毒性なし
無毒性レベル (親の毒性): 600 mg/kg bw/day
無毒性レベル (生殖毒性): 600 mg/kg bw/day
(方法: OECD 試験ガイドライン 422, ラット, 経口)

機密物質:

	繁殖/発生への影響スクリーニング試験: 生殖能力への毒性なし 無毒性レベル (生殖毒性): > 1.500 mg/kg bw/day (方法: OECD 試験ガイドライン 422, 経口投与) ((同類の製品で得られた結果))
機密物質:	拡張一代代生殖毒性試験: 生殖能力への有害な影響。 無毒性レベル (生殖毒性): 89 mg/kg bw/day (方法: OECD 試験ガイドライン 443, ラット, 飲食)
胎児成長:	入手可能な情報だけでは、この混合物の危険性は判断できない。
架橋型アクリレートモノマー:	繁殖/発生への影響スクリーニング試験: 有害影響はない。 無毒性レベル (発生毒性): > 600 mg/kg bw/day (方法: OECD 試験ガイドライン 422, 経口)
特定標的臓器/全身毒性:	
単回ばく露:	データなし
反復ばく露:	入手可能な情報だけでは、この混合物の危険性は判断できない。
アクリル酸エステル: ・ 動物で:	経口投与: 局部炎症, NOAEL= 50 mg/kg, LOAEL= 100 mg/kg (方法: OECD 試験ガイドライン 422, ラット, 28 d)
アクリルオリゴマー:	
低粘度アクリレートオリゴマー: ・ 動物で:	経口投与: 有害な全身作用は報告されていない。 NOAEL= > 100 mg/kg (方法: OECD 試験ガイドライン 422, ラット, 28 d) 胃の局所的な炎症 NOAEL= < 10 mg/kg
架橋型アクリレートモノマー:	経口投与: 副作用は報告されていない。 NOAEL= 600mg/kg bw/day (方法: OECD 試験ガイドライン 422, ラット, 亜急性)
機密物質: (同類の製品で得られた結果)。	経口投与: 標的臓器: 肝臓, 腎臓, 脾臓 (ラット, 慢性)
誤えん有害性:	データなし

12. 環境影響情報

生態毒性評価: この製品の有害性評価には、第3章に記載された成分及びその類似物質／代謝産物に関する利用可能な全てのデータを考慮した。

12.1. 急性毒性:

魚類:	組成物から判断して、次のように考えられる: 魚類に対して毒性。
アクリル酸エステル:	LC50, 96 h (Danio rerio (ゼブラフィッシュ)): 9,43 mg/l (方法: OECD 試験ガイドライン 203)
アクリルオリゴマー:	
低粘度アクリレートオリゴマー:	以下の類似物質の試験結果を考慮した:
アクリル酸エステル:	LC50, 96 h (Leuciscus idus (コイの一種)): 10 mg/l (方法: OECD 試験ガイドライン 203)
機密添加剤:	LC50, 96 h (Danio rerio (ゼブラフィッシュ)) (方法: OECD 試験ガイドライン 203) 溶解度の限界まで無影響
アクリル酸:	LC50, 96 h (Oncorhynchus mykiss): 27 mg/l (方法: US EPA)
非開示成分:	LC50, 96 h (Oncorhynchus mykiss (ニジマス)) (方法: US EPA) 溶解度の限界まで無影響

甲殻類:	組成物から判断して、次のように考えられる：ミジンコに有害。
アクリル酸エステル：	EC50, 48 h (Daphnia magna (オオミジンコ))：158, 3 mg/l (方法: OECD 試験ガイドライン 202)
アクリルオリゴマー：	
低粘度アクリレートオリゴマー：	EC50, 48 h (Daphnia magna (オオミジンコ))：19, 5 mg/l (方法: OECD 試験ガイドライン 202)
機密添加剤：	EC50, 48 h (Daphnia magna (オオミジンコ)) (方法: OECD 試験ガイドライン 202) 溶解度の限界まで無影響
アクリル酸：	EC50, 48 h (Daphnia magna (オオミジンコ))：95 mg/l (方法: OECD 試験ガイドライン 202)
非開示成分：	EC50, 48 h (Daphnia magna (オオミジンコ)) (方法: US EPA) 溶解度の限界まで無影響
藻類:	組成物から判断して、次のように考えられる：藻に対して毒性がある。
アクリル酸エステル：	ErC50, 72 h (Pseudokirchneriella subcapitata (緑藻))：25, 7 mg/l (方法: OECD 試験ガイドライン 201)
アクリルオリゴマー：	
低粘度アクリレートオリゴマー：	以下の類似物質の試験結果を考慮した：
アクリル酸エステル：	ErC50, 72 h (Desmodesmus subspicatus (緑藻))：4, 4 mg/l (方法: ISO (国際標準化機構) 8692)
機密添加剤：	ErC50, 72 h (Desmodesmus subspicatus (緑藻)) (方法: OECD 試験ガイドライン 201) 溶解度の限界まで無影響
アクリル酸：	ErC50, 72 h (Desmodesmus subspicatus (緑藻))：0, 13 mg/l (方法: OECD 試験ガイドライン 201)
非開示成分：	ErC50, 96 h (Pseudokirchneriella subcapitata (緑藻)) (方法: US EPA) 溶解度の限界まで無影響
微生物:	
アクリル酸エステル：	NOEC, 14 d (活性汚泥)：>= 100 mg/l (呼吸抑制)
アクリルオリゴマー：	
低粘度アクリレートオリゴマー：	NOEC (活性汚泥)：100 mg/l
機密添加剤：	EC50, 3 h (活性汚泥)：> 100 mg/l (方法: OECD 試験ガイドライン 209, 活性スラッジの呼吸阻止)
アクリル酸：	EC20, 30 min (活性汚泥)：900 mg/l (方法: Standard：ISO 8192, 呼吸抑制)
非開示成分：	EC50, 3 h (活性汚泥)：> 10.000 mg/l (方法: Standard：ISO 8192, 呼吸抑制)
堆積物毒性:	
非開示成分：	NOEC (潤滑)：13 mg/kg dw (方法: OECD 試験ガイドライン 225)
水生毒性 / 長期毒性:	
魚類:	
アクリル酸：	NOEC, 45 d (Oryzias latipes (和メダカ))：10, 1 mg/l (方法: OECD 試験ガイドライン 210)
非開示成分：	NOEC, 93 d (Oncorhynchus mykiss (ニジマス)) 溶解度の限界まで無影響
甲殻類:	

機密添加剤:

NOEC, 21 d (Daphnia magna (オオミジンコ)) (方法: OECD 試験ガイドライン 211) 溶解度の限界まで無影響

アクリル酸:

NOEC, 21 d (Daphnia magna (オオミジンコ)): 19 mg/l (方法: OECD 試験ガイドライン 202 - Part 2)

非開示成分:

NOEC, 21 d (Daphnia magna (オオミジンコ)): 7,9 µg/l (方法: OECD 試験ガイドライン 211)

藻類:

アクリル酸エステル:

ErC10, 72 h (Pseudokirchneriella subcapitata (緑藻)): 12,9 mg/l (方法: OECD 試験ガイドライン 201)

アクリルオリゴマー:

低粘度アクリレートオリゴマー:

以下の類似物質の試験結果を考慮した:

アクリル酸エステル:

ErC10, 72 h (Desmodesmus subspicatus (緑藻)): 0,71 mg/l

機密添加剤:

NOEC r, 72 h (Desmodesmus subspicatus (緑藻)) (方法: OECD 試験ガイドライン 201) 溶解度の限界まで無影響

アクリル酸:

ErC10, 72 h (Desmodesmus subspicatus (緑藻)): 0,03 mg/l (方法: OECD 試験ガイドライン 201)

非開示成分:

ErC10, 96 h (Pseudokirchneriella subcapitata (緑藻)) (方法: US EPA) 溶解度の限界まで無影響

非水生毒性 / 急性毒性:

土中生物に対する毒性:

機密添加剤:

EC10, 56 d (Eisenia fetida (ミミズ)): > 1.000 mg/kg (± dw) (方法: OECD 試験ガイドライン 222)
EC10, 28 d (微生物): > 1.000 mg/kg (± dw) (方法: OECD 試験ガイドライン 216)

アクリル酸:

LC50, 14 d (Eisenia fetida (ミミズ)): > 1.000 mg/kg (± dw) (方法: OECD 試験ガイドライン 207)
LC100, 28 d (微生物): 1.000 mg/kg (± dw) (方法: OECD 試験ガイドライン 217)

12.2. 残留性・分解性:

水中での安定性:

アクリル酸:

加水分解できない。
(pH 3 - 11)

非開示成分:

半減期: 5 h @ 25 ° C 並びに pH 5
半減期: 500 h @ 25 ° C 並びに pH 7
半減期: 7 h @ 25 ° C 並びに pH 9
方法: OECD 試験ガイドライン 111

生分解 (水中):

入手可能なデータだけでは、この混合物の生分解性は判断できない。

アクリル酸エステル:

難分解性.: 14,5 - 19,7 % / 28 d (方法: OECD 試験ガイドライン 301 F)

アクリルオリゴマー:

低粘度アクリレートオリゴマー:

難分解性.: 35,1 % / 28 d (方法: OECD 試験ガイドライン 301 F)

機密添加剤:

難分解性.: 1 % / 29 d (方法: OECD 試験ガイドライン 301 B)

アクリル酸:

易生分解性: 81 % / 28 d (方法: OECD 試験ガイドライン 301 D)

非開示成分:

難分解性: 3, 7 % / 29 d (方法: OECD 試験ガイドライン 310)

12. 3. 生体蓄積性:

生体蓄積性:

入手可能なデータだけでは、この混合物の生体蓄積性を判断できない。

アクリル酸エステル:

オクタノール／水分配係数: log Kow : 1, 09 - 2, 61 , @ 25 ° C (方法: OECD 試験ガイドライン 117)

アクリルオリゴマー:

低粘度アクリレートオリゴマー:

オクタノール／水分配係数: log Kow : 2, 03 (方法: OECD 試験ガイドライン 117)

架橋型アクリレートモノマー:

オクタノール／水分配係数: log Kow : 3, 38 (方法: 計算値)

アクリル酸エステル:

オクタノール／水分配係数: log Kow : 2, 48 (方法: 計算値)

機密添加剤:

オクタノール／水分配係数: log Kow : 5, 8 (方法: OECD 試験ガイドライン 117)

アクリル酸:

オクタノール／水分配係数: log Kow : 0, 46 , @ 25 ° C (方法: OECD 試験ガイドライン 107)

非開示成分:

オクタノール／水分配係数: log Kow : 6, 49 , @ 25, 1 ° C (方法: OECD 試験ガイドライン 123)

機密添加剤:

生物濃縮因子 (BCF) : < 5 (4 月, 方法: OECD 試験ガイドライン 305, Cyprinus carpio (コイ))

非開示成分:

生物濃縮因子 (BCF) : 14. 900 (28 d, 方法: 測定, Pimephales promelas (ファットヘッドミノウ))

12. 4. 土壌中の移動性 - 環境中の分布:

化学物質:

アクリル酸:
水: 98, 7 %
空気: 1, 3 %

吸収/脱着:

アクリル酸:

log Koc: 0, 78 - 2, 14 (方法: 測定)

12. 5. PBT および vPvB の評価結果:

入手可能な情報からは、REACH 規制付属書XIIIによるPBTおよびvPvBの基準を満たしているか判断を下すことはできない。

12. 6. 他の有害影響: 知見なし。

1 3. 廃棄上の注意

13. 1. 廃棄物処理:

製品の廃棄処分:

環境中への放出禁止。地方自治体の規制に従い処分する。
焼却による処分が推奨される。

包装の廃棄処分:

空の容器は、リサイクルまたは廃棄のために、認可を受けた廃棄物処理業者に委託する。

1 4. 輸送上の注意

規制	14. 1. 国連番号	14. 2. 品名 (国連輸送名)	14. 3. 国連分類*	ラベル	14. 4. PG*	14. 5. 環境危険有害性	14. 6. 特別の安全対策
IATA Cargo	3082	Environmentally hazardous substance, liquid, n.o.s. (Acrylate ester ,Low viscosity acrylic oligomer)	9	9MI	III	該当	
IATA Passenger	3082	Environmentally hazardous substance, liquid, n.o.s. (Acrylate ester ,Low viscosity acrylic oligomer)	9	9MI	III	該当	
IMDG	3082	ENVIRONMENTALLY HAZARDOUS SUBSTANCE, LIQUID, N. O. S. (ACRYLATE ESTER, LOW VISCOSITY ACRYLIC OLIGOMER)	9	9	III	海洋汚染物質	EmS Number: F-A, S-F マーク: MP

*説明: 14. 3. 輸送危険有害性クラス
14. 4. 容器等級

14. 7. MARPOL 73/78附属書II及びIBCコードによるばら積み輸送される液体物質 (該当・非該当): 適用なし

1 5. 適用法令

収載されていない
収載されていない
収載されていない
収載されていない
収載されていない
毒性化学物質および前駆物質における化学兵器禁止条約
ロッテルダム条約 (事前通報・同意手続)
ストックホルム条約 (残留性有機汚染物質)
モントリオール議定書 (オゾン層破壊物質)
JA 国連気候変動枠組条約の京都議定書、附属書 A、温室効果ガス

成分:

規制	化学名
労働安全衛生法: 通知対象物質	フェニルグリシジルエーテル

製品:
消防法 指定可燃物

目録:
European union/EEA : 欧州経済領域 (EEA) 拠点のアルケマ法人から購入した場合、当該製品のすべての成分はEU REACH (EC No. 1907/2006) に登録済み、あるいは登録対象外、登録免除である。EEA域外のアルケマ法人から購入する場合は、各現地法人の担当者にお問い合わせください。
TSCA (USA) : 本製品のコンポーネントはすべてTSCAインベントリにある
DSL/NDSL (Canada) : この製品は、カナダNDSLリストに記載されている1つあるいはいくつかの構成部品を含む。他のすべての構成部品はDSLリストに記載されている。
IECSC (CN) : 当該製品の構成成分はすべて収載済み又は登録免除である
ENCS (JP) : 当該製品の構成成分はすべて収載済み又は登録免除である
ISHL (JP) : 当該製品の構成成分はすべて収載済み又は登録免除である
KECI (KR) : 当該製品の構成成分はすべて収載又は登録免除ではない
PICCS (PH) : 当該製品の構成成分はすべて収載又は登録免除ではない
AIIC (AU) : 当該製品の構成成分はすべて収載又は登録免除ではない
TCSI (TW) : 当該製品の構成成分はすべて収載済み又は登録免除である

1 6. その他の情報

項目 2 および 3 で言及された H, EUH フレーズのテキスト全文

H226 引火性液体及び蒸気。
H302 飲み込むと有害。
H303 飲み込むと有害のおそれ。
H311 皮膚に接触すると有毒。
H312 皮膚に接触すると有害。
H313 皮膚に接触すると有害のおそれ。
H314 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
H315 皮膚刺激。
H317 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
H317 (1B) アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ。

H318	重篤な眼の損傷。
H319	強い眼刺激。
H332	吸入すると有害。
H333	吸入すると有害のおそれ。
H335	呼吸器への刺激のおそれ。
H341	遺伝性疾患のおそれの疑い。
H350	発がんのおそれ。
H351	発がんのおそれの疑い。
H361d	胎児への悪影響のおそれの疑い。
H361f	生殖能への悪影響のおそれの疑い。
H373	長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ。
H400	水生生物に非常に強い毒性。
H401	水生生物に毒性。
H402	水生生物に有害。
H410	長期継続的影響によって水生生物に非常に強い毒性。
H411	長期継続的影響によって水生生物に毒性。
H412	長期継続的影響によって水生生物に有毒。
H413	長期継続的影響によって水生生物に有害のおそれ。

分類語彙集:

NOAEL : 無毒性量 (NOAEL)
LOAEL : 最小毒性量 (LOAEL)
bw : 体重
food : 経口摂取
dw : 乾燥重量

この情報はARKEMAに準拠する製品に適用される。製剤あるいは混合物の場合、新たに危険が生じないことを確認することが必要である。含まれている情報は出版された時点での当社の製品の知識に基づいており、誠実に作成されている。所期の用途以外に本製品を使用する場合には、別の危険が発生する可能性があることに留意する必要がある。本製品安全データシートは危険防止および安全確保の目的に限って、使用また複製できるものとする。実施文書の法規および規範の参考文献は、完全無欠であるとみなすことができない。この製品を受け取った者は使用、取り扱いに際し、本公式文書の全体を参照する責を負う。また、本製品を取り扱う者は、使用、保管、容器の洗浄やその他の工程において本製品に接触すると思われるすべての者に対して、製品安全データシートに記載されている、作業時の安全確保、健康の保護や環境の保護に必要な全情報を伝える責任を負っている。

注意 : 本文書では、1000 (千) の数字区切りは「 . 」 (点) で、小数点の区切りは「 , 」 (コンマ) である。

